

情已ムヲ得スト認メラルルニ付此ノ儘進行セシムル積ナリ

(付記二)

大正十五年一月二十六日在ソ連邦田中大使発幣原外務大臣宛
電報第四二号

塚原ノ協定内容ニツキ報告ノ件

第四二号

(一月二十七日接受)

往電第二二二号ニ関シ

二十五日夜塚原ハ「ミュンキン」ト会谈ノ結果左ノ通協定
セル趣ナリ

(一) 鉦区 「コスチナ」調査区域六平方露里、調査期間二ケ
年、稼業地域ハ近日技術会議ニ於テ決定スル筈

(二) 利権期間 三十二年

(三) 報償 調査期間二ケ年ハ無償其ノ後三ケ年ハ五分其ノ後
一年(即チ一九三一年)ハ六分其ノ後八分

(四) 税金 商業的基礎ノ上ニ経営スル国家企業ニ対スルト同
様即チ目下ノ処ニテハ坂井組合契約ト等シク三分三厘三
毛但シ国营企業ト同シク鉦区税トシテ「ヘクター」ニ
付一留ノ負担アリ

(五) 減価償却 石造物四分、器械類一割、木造物七分トセル
外坂井契約ト同様

(六) 以上ノ外(1)前文(2)坂井契約第十八条ヲ欠クモ實際上ノ取
扱ハ「同様無税タルコト」ヲ除キ其ノ他全部坂井契約ト
同様

(付記三)

大正十五年二月八日在ソ連邦田中大使発幣原外務大臣宛電報
第五九号

塚原ノ採掘鉦区等契約内容決定ノ件

第五九号

(二月九日接受)

往電第四二二号ニ関シ

八日塚原「ミュンキン」会谈ノ結果採掘鉦区ハ六平方露里
ト為スコト及其他試掘期間等ノ諸点ニ就テモ塚原ノ希望通
リニ決定依テ十日仮調印十六日正式調印ノ筈

(付記四)

大正十五年二月十九日在ソ連邦田中大使発幣原外務大臣宛電
報第七三号

塚原ノ利権契約正式調印ノ件

第七三号

(二月二十日接受)

往電第五九号ニ関シ

塚原ハ十九日其ノ利権契約ニ正式調印ヲ了セルニ付二十日
帰朝ノ途ニ就ク筈

2 森林 利権

五六四 三月七日 太田警視總監ヨリ
幣原外務大臣他宛

対ソ林業者ノ現況ニ関スル件

外秘第五二七号

(三月九日接受)

大正十四年三月七日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定 庁 府 県 長 官 殿

対露林業者ニ関スル件

従来対露木材取引ヲ為シ来リタルハ福島商会、極東林業組
合、亜細亞林業、日露興業、極東森林興業、沿海州木材、
根利満興業、極東林業各株式会社ノ八団体ニシテ林区位
置、名称、事業概況等別記^(省略)ノ通りナルカ之等ハ何レモ大正
九年極東政府(白系)トノ間ニ二十四ケ年ノ長期契約ヲ為
シ伐採ニ従事シ来リタル処大正十一年ニ至リ労働政府ヨリ

一五 日ソ間ノ利権交渉 五六四 五六五

従来ノ権利ヲ認メサル旨ノ通告ニ接シタルニヨリ林業者等
ハ多大ノ犠牲ヲ払ヒ来レル事情ヲ懇ヘ既得権ヲ主張シタル
結果労働政府所定ノ新制度ニ依リ一ケ年ノ短期契約ヲ為ス
事トナリ前記八団体ノ内極東森林興業、沿海州木材、日露
興業ノ三会社ハ将来ニ望ヲ嘱シ之ニ忍従シ来リシモ他ノ諸
会社ハ軍艦保護ノ許ニ既ニ伐採セル木材ヲ搬出シテ引上ケ
タルヨリ露国側ニ於テハ国権ヲ侵害セラレタリト憤慨シ
タル由ナルカ一方前記三会社ハ昨年ニ至リ長期ノ契約ヲ交
渉シタル処日露交渉成立後ニスヘシトノ事ナリシヲ以テ昨
年ハ伐採ヲ中止シ居タルカ今回交渉成立シタルヲ以テ約ノ
如ク客月末ニ至リ在「ハバロフスク」林業局ヨリ契約ノ為
メ出頭セヨトノ通知ニ接シタルヲ以テ三社ハ直チニ各代表
社員(本月五日外秘第五一二号既報)ヲ派遣シタルモノノ
由ナリ

右及申(通) 報候

五六五 四月十一日 太田警視總監ヨリ
幣原外務大臣他宛

日露通商産業組合員ソ連渡航ノ件

外秘第八七五号

(四月十三日接受)

大正十四年四月十一日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定 庁 府 県 長 官 殿

日露通商産業組合員渡露ノ件

日露通商産業組合理事

夏秋亀一

同上兼大倉商會社員

吉田 薫

右兩名ハ本日敦賀出帆ノ嘉義丸ニテ同道浦塩ニ渡航スヘク
昨十日午後八時三十分東京駅ヲ出発セリ

夏秋ハ肩書組合代表者トシテ浦塩ニ滞在シ貿易及鉱山事業
等ニ関シ露国当局ト交渉センカ為メ又吉田ハ産業組合ヲ代
表シ露国大使一行ヲ出迎ヘンカ為メニシテ同人ハ出発前当
地滞在中ノ一等書記官「クヅネツォフ」ヨリコップ大使宛
ノ書信ヲ受ケ携行セリト言フ

日露通商産業組合ノ組織ニ関シテハ三月六日外秘第五一三
号既報ノ通りナルカ同會ハ去ル三月中勞農政府トノ間ニ沿

五六六 五月二日

豊田福井県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

ソ連ニ於ケル森林利權問題ニ關スル件

外高秘乙第七一七号

(五月五日接受)

大正十四年五月二日

福井県知事 豊田 勝蔵(印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

農林大臣 岡崎 邦 輔殿

指定 庁 府 県 長 官 殿

森林利權問題ニ關スル件

東京府豊多摩郡代々幡代々木
(初め)
福台六三九

大倉組營業部員

吉田 薫

右ハ駐日露国大使一行出迎並ニ首題ノ件ニ關シ客月十一日
敦賀出帆ノ嘉義丸ニテ渡浦シ本月一日入港ノ同船ニテ帰来
シタルモノナルカ森林利權問題ニ關シ左記ノ如ク洩セリ
右及申(通) 報候也

一五 日ソ間ノ利權交渉 五六六 五六七

海州「コッピー」付近ニ於テ伐採後ノ林区三万町歩ノ整理
請負契約ヲ締結セルカ右ハ露国労働者ヲ使用スルモノニシ
テ一町歩ニ付勞農政府ヨリ三円ノ補助ヲ受クル契約ナルカ
整理費用一町歩ニ付十五円ヲ要スルモ同所ニ放置シアル小
木材ハ坑木トシテ適當ノモノニシテ自由ニ処分シ得ルモノ
ナレハ之ヲ青島各坑山ニ供給スル筈ニシテ頗ル有利ノ事業
ナリト言フ右ハ青島ニ於ケル東奧商會ノ出資ニ依リ経営シ
利益ノ幾分ヲ組合ニ贈ルモノナリト

産業組合カ態々吉田ヲ派シ大使ヲ出迎ヘントスルハ日露相
扶會等ニ先立チ大使及商務官等ヲ斡旋招待シ以テ好感ヲ与
ヘ将来組合ノ為メニ利セントスルモノノ如ク一行入京後ハ
直チニ組合員ノミヲ以テ歡迎會ヲ開催スヘキ筈ナリ而シテ
「コップ」大使一行ハ二十一日浦塩ヘ到着シ内四五名ハ同
地ヨリ敦賀ニ直行大使等ハ朝鮮經由下ノ関ニ渡来ノ筈ナル
カ吉田ハ之ニ同行スヘシト

追テ吉田ハ大倉組ヨリモ別ニ林業及貿易ニ關スル調査ヲ託
セラレ其ノ旅費ハ大倉組ヨリ支給セラレタルモノナリ

右及申(通) 報候

左 記

一、自分ハコップ大使一行ヲ浦塩マテ出迎ヘ其ノ道案内ヲ
ナス考ニテ渡浦シタルモ大使一行ハ奉天經由渡日シタル
為メ遂ニ面接ノ機ヲ失ヒタルヲ以テ第二ノ目的タル森林
利權問題ノ内査ニ着手シ露領「ハバロフスク」ニ至リ同
地森林利權局長「レズルコフ」ニ面會シ種々ナル打合ヲ
為シタルカ森林ニ關スル細目協定ハ近ク行ハルルニ付協
定ノ期ヲ待チ交渉ヲ開始スル考ナルカ利權局長ニ面接ノ
結果略々了解ヲ得タル次第ナリ而シテ「レズルコフ」ノ
談ニ依レハ出願ハ細目協定ニ至ラストモ斯業ニ経験ヲ有
スル人物ヲ派遣セハ委員會ヲ以テ決定スヘシト

二、出願ノ箇所ハ曩ニ極東林業組合カ着手シタルコトアル
「サマルガ」地方ヲ選定スルカ或ハ他ヲ選フカ商議ノ上
決定スヘキ事柄ナルカ要スルニ露国側ハ沿海県地方ニ於
テ何レノ地ヲ問ハス許容スル訳ナリ

五六七 六月二十七日

外務省ヨリ
在本邦ソ連大使館宛口上書

露領林業組合ヨリノ願出伝達方ノ件

口 上 書

日本外務省ハ在東京露領林業組合長門野重九郎氏ヨリ「目下「ハバロフスク」ニ滞在中ナル成田忠正、阿部有真ノ両名ハ先般「ハバロフスク」森林当局ノ招電ニ依リ沿海州林業長期「コンセツション」契約ニ関スル交渉ノ為同組合代表トシテ特派シタルモノニシテ同組合ニ於テハ該交渉力日露復交ノ第一着ニ成立スルコトハ即チ両国ノ經濟提携上最モ有力ナルモノナルコトヲ確信シ右交渉ノ迅速且円満ニ成立スルコトヲ希望致シ居ルモノナルコトヲ在本邦「ソヴィエト」連邦大使ヲ通シテ「ハバロフスク」当局ニ御電報相煩度旨」願出アリタルニ付茲ニ右ノ願意ヲ同大使館ニ伝達スルノ光榮ヲ有ス

編註 仏訳及ヒ露訳文省略ス

五六八 八月三日

豊田福井県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

森林利権獲得ノタメ入ソセル露領林業組合成

田代表ノ談話報告ノ件

外高秘乙第三八〇号

(八月六日接受)

大正十四年八月三日

福井県知事 豊田 勝蔵(印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿
外務大臣 幣原 喜重郎殿
指定 庁 府 県 長官殿

森林利権獲得ニ関シ入露邦人談片ノ件

原籍 福島県安積郡富田村

露領林業組員

成田 忠正

右ハ沿海州方面ニ於ケル森林利権獲得ニ関シ本年五月露領林業組合ヲ代表シ入露ハバロフスクニ滞在中ナリシ処客月三十一日浦塩ヨリ敦賀入港ノ嘉義丸ニテ帰来シタリ右獲得運動ノ模様ニ付同人ハ語ル

余ハ入露以来二ヶ月半ハバロフスクニ滞在中ニシテ森林利権獲得ニ関シ専ラ露国当局ト交渉ノ結果多少迂余曲折アリタルモ略ホ纏マリ遠カラス契約書ヲ手交スルニ至ルヘキモ一応組合幹部ニ打合せ置クノ要アリト認め約二週間ノ予定ヲ以テ帰国シタル次第ナルカ余ノ交渉セル森林ハ沿海州ニ於テ九箇所面積百十万町歩及北樺太ニ於テ一箇所十一万町歩何レモ千古斧鉞ヲ加ヘサルモノニシテ紅松エゾ松等之ヲ占メ居レリ

謹啓倍々御多様奉賀候

予而一方ナラヌ御高配ヲ忝フ致居候対露林業利権交渉ニ関スル件其後ノ経過別紙ノ如クニ有之候ニ付テハ從來ノ關係上田中駐露大使ニ対シ御報告申上同時ニ適機ノ御援助相願度存候間恐縮ノ次第ニ候得共右報告書御転送方御取計ヒ被成下度別紙写相添ヘ此段奉願候

拜具

大正十四年八月十八日

(別紙)

(写)

大正十四年八月十八日

露領林業組合

田中大使閣下

謹啓益御清健邦家ノタメ大慶至極ニ奉存候陳者御赴任前御懇願申上置候林業利権ニ関スル弊組合ノ対露交渉ノ件其後ノ経過左記ノ通り御報告申上候

六月初旬露国極東利権委員会ヨリ沿海州林業長期コンセツション契約ニ関シ協議シタキニヨリ代表者派遣セラレタキ旨ノ招電ニ接シタルニヨリ弊組合代表トシテ成田、阿部両

ト
右及申(通)報候也

五六九 八月十八日

露領林業組合ヨリ
広田欧米局長宛

対ソ林業利権交渉経過報告田中大使へ転送方

並ニ援助依頼ノ件

露領林業組合

広田 欧米局長殿

一五 日ソ間ノ利権交渉 五六九

名ヲ哈府ニ派遣シ交渉ヲ開始セシムルニ至リ候六月十五日成田、阿部兩名ハ在哈府ノ極東利權委員會ニ出頭根本精神トシテ左記三ヶ条ノ希望ヲ述ヘタリ

一、我組會員ノ從來ノ利權ヲ認メ優先權ヲ賦与スルコト
二、極東沿海州ニ於ケル林業ハ特別ノ事情ノ下ニアルヲ以テモスコ―指示ノ基本契約案ニ拠ラス採算上經營可能ノ条件ヲ以テ契約スルコト

三、極東利權委員會ト締結セル条件ハ絶対的ノモノトシ中央政府ノ批准ハ單ニ形式ニ止ムコト

右三条項ニ関シ數回ノ交渉ヲ重ネタル結果一、及二、ハ承認ヲ得タルモ三、ハ政体組織上中央政府ノ批准ヲ要シ且絶対變更ナキコトノ保証ハ形式上極東委員會ニ於テ其權限ナシ但大体ノ骨子ハ變更サレサル事ニ努力スル旨ノ言明アリ次テ七月三日ヨリ極東利權委員會ノ撰任シタル特別利權委員極東土地課長代理シリキン氏ト別紙当方ノ希望条件ニ基キ具体案ノ交渉ニ移リ申候

然ルニ林業利權ノ性質上其所轄關係官庁多岐複雑ニシテ林務課、土地課、貿易局、労働局、労働保護局、国家産業部、国家企業部、ダリレース、中央購買組合、經濟委員會

紙其他ノ木材利用工場ヲ建設スルノ義務条件ヲ付シアルモ当方トシテハ『企業者ノ見込確立シタル後建設スルコトトス』ト期限ニ対スル自由ヲ要求シ居ルモノニ候

(2)ハ先年チタ利權委員長コボゼフ氏ト弊組合代表者トノ交渉ノ際未伐木代金約百四十万留ノ内互譲シテ百万留丈ケ之ヲ認メ将来ノ木代金ニ充当スルコトニ妥協成立シテ其覚書迄交付セラレタルモ不幸モスコ―政府ノ承認ヲ得ルニ至ラスシテ立消ヘトナリタル沿革モアリ今回モ是非強硬ニ主張シタキ心組ニテ止ムナクハ左ノ如キ順序ニヨリ讓歩シテ最後案ヲ得度存居候

(イ)曾テ一度仮承認ヲ得タル百万留ヲ半減シテ五十万留トシテナリト其承認ヲ求ムルコト

(ロ)露国側ノ主張スル罰金、過怠金其他ノ料金等其名称ノ如何ヲ問ハス従前ノ權利義務ハ相殺シテ一切追求セサルコトトシ各林場ニ残存スル諸設備、諸物資等ノ諸財産ハ各前權利者ニ無償ニテ交付スルコト

大体上陳ノ如キ次第ニテ当方ノ要求事項ニ対シ目下モスコ―政府ニ於テ討議研究致居候模様ニ有之近ク何等カノ回答ニ接スヘクトハ存候得共問題ノ性質上到底一朝一夕ノ解決

等ニ夫々交渉ヲ要スルタメ具體的の成案ヲ得ルコト頗ル困難ニシテ就中諸稅單一化ノ如キハ一般委員カ其必要ヲ認ムルニ拘ハラス經濟委員會ニ於テハ法律違犯ヲ楯トシテ頑トシテ承認セス止ムナク根本課稅ノ基準タル資本金ノ低下ニヨリ妥協スルノ止ムナキニ至リ候

又労働保險ニ就テハ從來極東ニ於テノ賦課率タル労働賃金ノ22%ヲ14%ニ低減シ且農民労働者ニ対シテハ之ヲ免除シ又冬季間ノミノ伐採事業タルカ故ニシーズンラボーチートシテノ規定ヲ適用シテ其賦課率ヲ半減スルコトニ稍同意スルニ至リタルモ目下中央政府ノ許可申請中ニテ決定スルニ至ラス又払下ニ適用スヘキ木材寸檢法ヲ世界一般ニ通用シ居レルチェリントリスキー法ニ拠ルヘキコトヲ要求シ居ルモ是亦決定ニ至ラス

而シテ目下交渉中ノ二大重要案件ハ

(1)払下林区内ニ一定期間中ニ工場ヲ建設スルコトノ義務ヲ緩和スルコト

(2)白色政府時代ニ支払ヒタル未伐木代金ヲ今後ノ木代金ニ振替充当スルコト

ニシテ(1)ハ露国政府ノ原案ハ起業後三ヶ年内ニ製材又ハ製

ハ六ヶ數カルヘク紆余曲折ヲ經ルコトト被存候間右御含ノ上今後ノ狀勢ニ応シ直接間接ニ適當ノ御援助給ハリ度惓惓仕候

尚本交渉ニ関シモスコ―政府内ニ於ケル情報等ニ就キ御探知相成候コト有之候ハハ外務省ヲ通シ御垂示給ハリ度願上候

追而弊組合ハ右経過報告ノタメ最近帰京セル成田代表ノ情報ニ基キ組會員總會ヲ開キ交渉原案作成ノタメ考究討議中ニ有之候

五七〇 九月四日 在ハバロフスクニ瓶總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

沿海州ニ於ケル林業ニ関シ報告ノ件

公第二号 (九月二十二日接受)

大正十四年九月四日

在ハバロフスク

總領事 二瓶 兵二(印)

外務大臣 幣原 喜重郎殿

沿海州ニ於ケル林業ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シ別紙ノ通り報告申進ス

(別紙)

露領沿海県ニ於ケル林業

露領沿海県ニ於ケル木材ノ產地ハ交通機關ノ關係上日本海沿岸及「ウスリ」鐵道沿線ニ自ラ局限セラレ「ウスリ」沿線ニ於テハ產地次第ニ北進シ且ツ鐵道線路ヨリ二、三十露里乃至七、八十露里ノ内地ニ深入シツツアリ日本海沿岸ニ於テモ略ホ同一ノ狀況ニ在ルカ如シ而シテ木材ノ種類ハ主トシテ白楊樹、赤松及落葉松ノ三種ニシテ白楊樹ハ燐寸軸木、赤松ハ建築材料、落葉松ハ木煉瓦ニ使用セラル木材取扱者ハ露國側ニ於テハ「ダリレス」日本側ニ於テハ主トシテ鈴木商店ニシテ同商店ニ於テハ現在「ハバロフスク」「ウエリノ」「ホール」「イマン」「ウスリ」「ニコリスク」浦潮ノ各地ニ露人又ハ日本人店員ヲ派遣シ居レリ鈴木商店以外ノ日本當業者ハ時々沿線ニ店員ヲ派遣スルモノナキニアラサルモ多クハ専ラ浦潮ニ於テ營業シツツアリ日本海沿岸ノ狀況ハ詳ナラサルモ露領林業組合側ニ於テ多少ノ取引ヲ為シツツアル者アルニ止マルカ如シ露領沿海県全体ニ於ケル本邦人ノ木材取扱高ニ付テハ未タ統計ノ拠ルヘキモノナキモ近年次第ニ減少シ日露國交回復後ニ於テモ更ニ増加

在ハバロフスク

總領事 二瓶 兵二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

森林利權獲得手續ニ関スル件

極東露領ニ於ケル森林利權獲得手續ニ関シ極東利權委員會ノ發表シタル所ニ拠リ別紙ノ通り報告ス

(別紙)

極東露領ニ於ケル森林利權手續

- 一、極東露領ニ於テ森林利權ヲ獲得セント欲スル者ハ「ハバロフスク」ニ於ケル極東革命委員會付屬利權委員會ニ願書ヲ差出スヘシ
- 二、願書ニハ規定額ノ印紙ヲ貼付スルコトヲ要シ印紙ノ貼付ナキ願書ハ之ヲ受理セス
- 三、願書ニハ希望地域及条件、期限、目的、資産狀況(出願ノ真面目ナルコトヲ証スル為)利權契約ニ基ク義務履行ノ保証及郵便電信宛名ヲ明記スヘシ
- 四、利權ノ交渉ハ出願人又ハ其全權代理人ト「ハバロフスク」ニ於テ之ヲ為ス
- 五、交渉ノ為メニ要スル郵便又ハ電信ノ費用ハ出願人ノ負

一五 日ソ間ノ利權交渉 五七二 五七三

スル形勢ナシ之レ本邦木材市況不景氣ナルニ依ルコト勿論ナリト雖モ其主ナル理由ハ「ダリレス」カ木材ノ取扱ヲ殆ト独占シ本邦當業者ハ單ニ其買手タルニ止マルコト本邦當業者ニ対スル營業稅及取引高ニ対スル課稅過重ナルコトニアリ地方住民ハ出兵ノ結果本邦人ニ惡感ヲ抱キ居ルヤノ噂アルモ事實ハ全ク反對ニシテ彼等ハ木材ノ伐採運搬ヲ副業トシツツアル關係上本邦人當業者ノ入り込ムコトヲ歡迎シ中ニハ農村組合ノ名ヲ以テ本邦當業者トノ直接取引即チ農村組合ノ名ニ於テ本邦當業者ニ木材ヲ提供シ取引關係ヲ結ハンコトヲ希望スル者アリトイフ若シ本邦當業者ニシテ彼等ト取引關係ヲ結ビ彼等ノ力ヲ借りテ輸出許可ヲ容易ナラシメ且ツ木材ト交換的ニ我カ工業品ヲ彼等ニ提供スルコトヲ得ルニ至ラハ極東地方ノ貿易ハ著シク發展スルニ至ルヘシ

五七一 九月七日 在ハバロフスクニ瓶總領事ヨリ 幣原外務大臣宛

森林利權獲得手續報告ノ件

公第三号 (九月二十二日接受)

大正十四年九月七日

担トス

六、利權ノ期限ハ二十四年ヲ越ユヘカラス

七、利權契約ハ「ソヴィエト」連邦人民委員會會議ノ承認ヲ得タル後其効力ヲ生ス 以上

編註 本件ハ九月二十八日付歐一普通合第一六七九号ニヨリ出
洲外務次官ヨリ阿部農林次官及ビ門野極東林業組合長ニ
通報サレタ

五七二 九月二十六日 在ハバロフスクニ瓶總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

露領林業組合代表ハソ連側利權委員トノ間ニ
交渉ヲ開始セル件

第一九号 (九月二十七日接受)

露領林業組合代表成田忠正、滝口寅之助兩名ハ二十四日ヨリ当地ニ於テ農務全權「マモノフ」ヲ委員長トシ浦塩林務局長「レーベフ」ヲ補佐トスル露國側利權委員トノ間ニ沿海県長期森林利權ノ交渉ヲ開始セリ
莫斯科ヘ転電セリ

五七三 九月二十八日 在ハバロフスクニ瓶總領事ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

八四五

一五 日ソ間ノ利権交渉 五七四 五七五

林業組合発電報中秘密ヲ要スルモノハ本省經由ヲ許可セラルルヨウ尽力方同代表ヨリ願出ノ件

第二二号

当地発本邦行電報ハ浦潮ニ於テ検閲セラレ語数切替料金ヲ追徴セラルル事アリ從テ其内容ハ必要ニ応シ浦潮ヨリ当地官憲ニ通報セラルルモノトセサル可カラス之カ為利権交渉上不利ナル立場ニ陥ル趣ニ付林業組合発電報中掛引上露国側ニ知ラルルヲ不利トスルモノハ同組合ノ願ニ依リ本省ヲ經由スルコトヲ許可セラルル様尽力アリタキ旨成田ヨリ願出アリタリ本日ヨリ交渉再開セラルル筈ニ付右至急御詮議ノ上何分ノ儀御電報ヲ乞フ

編註 右ニ対シ九月二十九日幣原大臣発二瓶総領事宛電報第一

一号デ本省經由差支ヘナイ旨打電サレタ

五七四 九月二十八日 在ハバロフスク二瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

露領林業組合トソ連側トノ折衝ホボ折合ツキ
タル件

第二三号 (九月二十九日接受)

「キジ」「カジ」第一、七、八、九林区モ纏メテ払下クルカ若ハ確實ナル方法ニ於テ前金貸出ヲ条件トシテ交渉スルコト最モ有利ナリ貴意返電アリタシ
「サマルガ」回収ノ見込少ナシ

五七六 九月三十日 在ハバロフスク二瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連当局ノ財源確保切望ノ現在ナルベク多ク
ノ森林利権ヲ取得セシムルト共ニ確實ナル企業家ヲシテ水田利権ヲ出願セシムルヨウ意見具申ノ件

第二六号

極東政府ハ本年度ニ於ケル漁業ノ不良木材ノ不況農作ノ不良等ノ為十月一日ニ始ル新年度ニ於テ新ナル財源ヲ求メサルヘカサル状態ニ在リ之カ為利権出願者ノ多カラシコトヲ希望シ居ルコト往電第二五号ノ通ナリ就テハ此際可成多クノ森林利権ヲ取得セシムルト共ニ確實ナル企業家ヲシテ水田利権ヲ出願セシムル様致度露国側ニ於テハ具体案ノ提出アラハ何時ニテモ水田利権ノ交渉ニ応スヘシト称シ居ルニ付御参考マテ

一五 日ソ間ノ利権交渉 五七六 五七七 五七八

往電第一九号ニ関シ

八四六

林業組合側ハ(一)沿海県「ムラシキ」外八箇所及新ニ北樺太「ピレウオ」一箇所計一〇林区此ノ面積計二百四十万「デシヤチン」ニ対シ(二)二十四箇年ノ期限ニテ利権ヲ獲得セントシタル処露国側ハ之ヲ二十箇年ニ短縮シ其ノ代リ從來ノ木代金一立方「フート」七哥ヲ三哥迄讓歩スルコトトシテ略折合ツキ今後ノ交渉ノ中心ハ組合側ニ於テ将来露国側ノ苛酷ナル課税及労働法ノ適用ニ対シ一定ノ保障ヲ得ントスル点ニ在リ

在露大使ヘ転電セリ

五七五 九月二十九日 在ハバロフスク二瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

先方トノ交渉上我が方ニ有利ナル条件ニツキ
申報ノ件

第二五号

今日迄ノ交渉ノ經過ヨリ察スレハ当方ノ強味ハ先方ノ歳入不足ニ在リ故ニ此際出来ル丈ケ多クノ林区ヲ出願シ先方ノ希望収入額ニ達セシムルヲ得ハ存外有利ナル条件ニ依リ契約シ得ヘシ

五七七 十月七日 在ハバロフスク二瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

林業ニ関スルソノ後ノ交渉内容報告ノ件

第三一号 (十月八日接受)

往電第二三号ニ関シ

二日夜露国側ハ成田案討議ノ際与ヘタル言質ヲ無視シ自分勝手ノ条件ヲ提出シタルモ固ヨリ掛引ニシテ其後次第ニ打合

(一)木代紅松七「カベク」落葉松三「カベク」

(二)税金木代ノ三割五分外ニ目下FOB五分ノ保護税

(三)後片付木代ノ一割

(四)製材工場ノ急設

(五)労働法ノ適用ハ「ダリレス」ニ準スル迄漕付ケタル由ナルカ成田ノ態度如何ニ依リテハ尚幾分露国側ニテ讓歩シ交渉成立スルモノト観測セラル

在露大使ヘ転電セリ

五七八 十月九日 在ハバロフスク二瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

課税問題、労働保険問題ニ関スル折衝ノ経緯

八四七

ニ鑑ミモスクワニ於ケル細目協定ノ經過通報

アリタキ旨要望ノ件

第三四号

(十月十日接受)

往電第二三三三号ニ関シ

八日夜課税問題、労働保険問題ヲ討議シタルカ露国側ハ(一)差当リ国営機関ト同一ノ税金ヲ課シ別ニ右税金額ニ対スル一定率ヲ協定シ将来新税ヲ設クルモ右協定率以上ハ納税ノ義務ヲ免除スル事(二)四年目ニ伐採木材ノ二割五分、六年目ニ五割、九年目ニ七割五分ヲ消化ス可キ「バルプ」及製材工場ヲ建設シ租借期間満了ト共ニ右工場ハ露国側ノ有ニ帰スル事(三)労働保険ハ国営機関ニ準シ労働銀ノ一割トスル事ヲ提議シ成田ハ之ニ対シ(一)税金ハ初メヨリ木代ニ対スル三割五分ノ單一税トスル事(二)工場ハ六年目ニ五割ヲ消化スル設備ヲ為シ期間満了ノ際機械ノ搬出ヲ許ス事(三)労働保険ハ五分ニ制限スル事ヲ主張シ他日交換条件ニ使用スルヲ決定ヲ留保シタリ

以上ノ諸問題ニ関シ露国側ハ最近莫斯科細目協定ノ經過ヲ云々シ強硬ニ主張シ居レリ就テハ当方ニ於テモ結局莫斯科ニ於ケル我当業者ニ倣ヒ態度ヲ決スル外無カル可シト思考

セラルルニ付当方ノ参考迄ニ右經過至急電報アリ度シ

五七九 十月十日 幣原外務大臣ヨリ
在ハバロフスクニ瓶総領事宛(電報)

モスクワニ於ケル利権交渉經過通報ノ件

第一五号(極秘)

貴電第三四号ニ関シ

莫斯科ニ於ケル交渉中

(一)課税問題ニ関シテハ石油、石炭共先方ハ最初国営企業ト同一待遇トスヘキ旨提案セルモ石油側ハ單一納金トシ産出総量ノ三%迄納付スヘキ旨主張セルニ対シ先方ハ單一納金トスルニ主義上同意シ且先方ノ計算ニ依レハ国営企業ニ対スル課税総額ハ産出総量ノ三・八四%ニ相当スルニ付歩寄リノ方法モアルヘク只印紙税及社会保険料ハ別ニ支払フヘキモノト云ヘルカ未タ解決ニ至ラス石炭側ハ課税金免ヲ主張シ未タ解決セス

(二)企業財産ノ帰属問題ニ付テハ先方ハ石油、石炭共(イ)企業地ニアル企業ニ直接関係アル政府所屬ノ建物及機械器具ヲ価格ノ一割ニ相当スル使用料ヲ納付シテ使用スルノ權利(ロ)新設備ヲ行ヒ使用スル權利ヲ認め(ハ)契約満期後二ヶ月以内

付テハ石油、石炭共我方ニテ之ヲ承認シ外国労働者使用割合問題ニ付テハ石油ニ付テハ我方ニテ総使用人全部ヲ通シ五割迄外国人ヲ使用シ得ヘキ旨主張シ又石炭ニ付テハ我方ニテ今後十年位ハ利権者カ自由ニ使用人ノ国籍ヲ選ビ得ヘキ事トスヘキ旨主張シ何レモ十月二日迄ノ処未決定ナリ

五八〇 十月十四日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大体交渉ノ見込立チタルニヨリ成田代表帰朝

セル件

第三五号

往電第三四号ニ関シ

大体交渉成立ノ見込モ立チ当方最後ノ決定ヲ為スヘキ時期到来セルヲ以テ成田ハ組合本部ト打合セノ為十二日当地出發帰朝ノ途ニ就ケリ同人不在中滝口交渉継続ノ答

五八一 十月十六日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

露領林業組合ノ内部不統一ノ懸念ニ関シ報告

ノ件

第三六号

往電第三五号ニ関シ

露国側ハ今回「ウラソフ」「ゴロデツキ」其他内外ノ他ノ一切ノ利権屋ヲ排斥シ専ラ林業組合ヲ相手ニ交渉シツアル事トテ成田ノ帰朝ノ真意ヲ疑ヒ同人ヲ引止メムトシタルモ成田カ本邦木材市場ノ不況及露国側ノ過重ナル条件ニ顧ミ最後ノ決定ヲ為ス前是非本部ト打合セヲ為ス必要アルヲ説明シ且同人不在中滝口ヲシテ交渉ヲ継続セシムヘキ事ヲ約シタル結果先方モ漸ク安心シタル様子ナルモ之ト同時ニ林業組合カ果シテ「シンジケート」トシテ一体ヲ為スモノナリヤ否ヤニ付多少ノ疑ヲ起シツツアリ成田帰朝ノ目的モ実ハ交渉成立後ノ内部ノ統一ヲ氣遣ヒタル結果ナリト察セラルル処若シ此際各自ノ利害ヨリ組合内部ノ不統一ヲ暴露スルカ如キコトアリテハ交渉上甚タ面白カラサルノミナラス交渉成立後ニ於テモ之カ為メ露国側ノ乗スル所トナリ種々ノ難儀ヲ生スルカ如キ事アリテハ遺憾極マリナキ次第第二付老婆心ナカラ右御参考迄

五八二 十月十九日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連側ハ我方組合ニ対シ細心注意ヲ怠ラザ

外高秘乙第五三三号

(十月二十二日接受)

大正十四年十月二十日

福井県知事 豊田 勝蔵(印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣 幣原 喜重郎殿

指定庁 府県長官殿

森林利権獲得ニ関シ入露邦人帰朝ノ件

原籍 福島県安積郡富田村

露領林業組合員

成田 忠正

右ハ沿海州方面ニ於ケル森林利権獲得ニ関シ本年九月再入露ハバロフスクニ滞在露国当局ト専ラ折衝中ノ処一応経過ヲ組合幹部ニ報告旁々外務(貴)省ノ意向ヲ聴取スルノ必要ニ迫リタルヲ以テ一先帰朝シタリト称シ本月十六日浦塩ヨリ敦賀入港ノ嘉義丸ニテ帰来シタルカ同交渉ノ模様ニ付左記ノ如ク語レリ

右及申(通)報候也

記

契約案中木材価格、税金、労働法適用ノ範圍等ハ略々協定

一五 日ソ間ノ利権交渉 五八五

ル旨報告ノ件

第三七号

滝口ヨリ梅浦ヘ左ノ通り

露国側ハ我組合ニ関シ細心ノ注意ヲ怠ラス(組合ノ分裂懸念サル)十月二日付時事新報記事ノ如キ交渉進捗ニ甚大ナル悪影響アリ御注意ヲ請フ

五八三 十月二十日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

組合員ノ社名及ビ確實ニ租借スル林区名ヲ正式文書ニテ提出スルヨウ先方ヨリ要求サレタ

ル件

第四一号

滝口ヨリ梅浦ヘ左ノ通

前電新聞記事ノ結果疑ヲ生セシ為カ突然組合員ノ社名及確實ニ租借スル林区名ヲ正式文書ニテ提出セヨト要求サレタ従前ノ通ニテ差支ナキヤ至急御返電待ツ

五八四 十月二十日 豊田福井県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

一時帰国セル成田代表ノ談話報告ノ件

済ナルモ懸案ハ労働保険料率問題ナリ即チ露国側ハ賃金22%余ハ5%ヲ互ニ固執シ居タリ其ノ後露国側ハ14%マテ譲歩シ来リシカ本問題ハ目下莫斯科ニ於テ兩國政府委員ノ折衝中ナル細目協定トモ關係アルカ故ニ外務省ノ意見ヲ聴取シタル上適當ニ解決セムト欲ス聞ク処ニ依レハ兩國政府委員ノ協定サレシ保険料率ハ石油坑夫16%石炭坑夫14%ナリトノ事ナレハ採木労働者ハ10%内外ニテ結局協定ヲ見ルナラム

露国当局ハ懸引ニ巧ニシテ譬ヘ吾々ノ主張ヲ適當ト認ムルモ直チニ賛意ヲ表シ譲歩セス其ノ譲歩スルニ際シテハ必スヤ他ノ交換条件ヲ提案シ以テ妥協セムトスルノ傾向アルモ交渉上誠意ナシトハ認メラレス莫斯科政府ヘノ請訓モ敏活ナルニ反シ吾々ノ方ハ予想外ノ日時ヲ要スル為予期ノ如ク進捗セサルハ遺憾ニ思ヒ居レリ云々

五八五 十月二十四日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

林業組合各社ノ資本金額等ヲ文書ヲ以テ提出方

先方ヨリノ申出ニ対スル対策問合セノ件

第四四号

(十月二十五日接受)

滝口ヨリ梅浦へ左ノ通

輸入物資中工場用機械ノミ無税輸入許可スル模様二十三日ノ會議ニ於テ先方ヨリ労働者及税率等ノ最大難問題可決セシニモ不係他ノ問題ヲ何故斯ク固執スルヤトノ質問ヲ受ケ当方ハ頗ル不利ナル立場ニ在リ同日尚改メテ組合各社資本額及所有工場ノ種別並個數ヲ詳細ニ文書ヲ以テ提出セヨト要求受ケタリ依テ在本邦露国大使ヲ經テ聞合サレ度シト応答セシ処当地ニ於テ直接返答受ケ度シト主張ス如何ス可キヤ至急返乞フ

五八六 十月二十六日 豊田福井県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

再度ハバロフスクニ赴ケル成田代表ノ内話報
告ノ件

外高秘乙第五四五号 (十月二十八日接受)

大正十四年十月二十六日

福井県知事 豊田 勝蔵(印)
内務大臣 若槻 礼次郎殿
外務大臣 幣原 喜重郎殿
指定庁 府県長官殿

成田ヨリ大倉合名梅浦へ左ノ通

極東革命委員會長二十日頃莫斯科へ出発スルニ付交渉急転直下決定ヲ見ルト思フ然ルニ契約ハ行懸リ上組合トシテ調印スル外方法ナシ尤一林区ノ過失ハ他ノ林区ニ累ヲ及ホサヌコトニ極力主張スルモ六ヶ敷思フ此ノ機会ヲ逸シテハ他日契約困難故他ニ何トカ方法ナキヤ返電請フ

五八八 十一月五日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

林業利権ニ関スル交渉ノ成立近シト思ハルル
モ組合ニ対スル先方ノ解釈ニ対シ組合側ニ注
意喚起ノ件

第五〇号 (十一月六日接受)

三日成田帰哈以来第一回ノ會議アリ成田ハ工場経営期間ヲ四十五年ニ延長スルコトヲ前提トシテ「パルプ」工場ヲ建設スルコト右期間満了ト同時ニ工場ハ露国ノ有ニ帰スルコトノ二点ヲ承認スヘキコトヲ提議シ露国側モ賛成ノ模様ナリ主義原則ニ触ルル問題ハ之ニテ大体解決シ余ストコロハ木代金税額等金高又ハ歩合ノ掛引ニ過キサルヲ以テ交渉ノ成立遠カラスト察セラル然ルニ成田等ハ各会社ノ委任状ヲ

一五 日ソ間ノ利権交渉 五八八 五八九

森林利権獲得ニ関シ邦人入露ノ件

露領林業組合代表

成田 忠正

右ハ沿海州ニ於ケル森林利権獲得ニ関シ入露「ハバロフスク」ニ滞在露国当局ト折衝中ノ処一応経過ヲ報告ノ為這般帰来シタル事ニ関シテハ本月二十日付外高秘乙第五三三三号既報ノ処同人ハ三度同利権獲得運動ノ為同二十四日午後四時敦賀解纜ノ嘉義丸ニテ浦塩經由「ハバロフスク」ニ赴ケルカ露国当局トノ行悩案件ニ付組合幹部ト打合セノ結果ヲ洩ラス処ニ依レハ沿海県産出ノ木材ハ独り販路ヲ我国ニ求メサルヘカラサルモノナレハ此ノ際忍ンテ不利ノ契約ヲ締結スルノ必要ナキノミナラス日露条約細目協定ニモ影響スヘキヲ以テ断シテ不当ノ譲歩ヲ為サル組合側ノ意向ナレハ今後ノ交渉ハ或ハ相当遷延スヘク認メラルルト
右及申(通)報候也

五八七 十一月五日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

交渉決定ノ見通シニツキ通報ノ件

第四九号

有スルモ組合全体ヲ代表シ組合ノ名ニ於テ契約ニ調印スルノ権限ヲ有セス露国側ハ之ニ反シ組合ヲ一ノ「シンジケー」トト解釈シ成田等ヲ其ノ代表者ト見做シ居ルヲ以テ各会社ト個々別々ノ契約ヲ締結スルコトハ全然之ヲ拒絕シ或ハ資力不十分ナリト認ムル会社ニ対シテノミ之ヲ拒絕スルニ至ルヤモ計ラレサルニ付此点予メ組合側ニ御注意相成様致度シ

五八九 十一月十日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

一定ノ条件ニヨリ組合名義デ契約シ差支ナカ
ルベキ旨進言ノ件

第五二号 (十一月十一日接受)

組合ハ組合員個々ニ対シ責任ヲ負ハス一林区ノ過失ハ他ニ累ヲ及ホサヌナレハ組合名義ニテ契約スルモ差支ナシ寧ロ組合員個々ニ契約シ先方ノ安心出来ル様「親」会社ニ於テ保証スル方法ヲ講シテハ如何若シ組合員ニテ責任ヲ負フトセハ林区ニ依リ現在及将来ニ於テ無条件ニテ除外返還シ得ルコトヲ条件トス

五九〇 十一月十日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

交渉ヲ不利ナラシメザルタメ内部ノ結束ヲ固
ムルヨウ組合側ニ訓諭方進言ノ件

第五三号

(十一月十一日接受)

林業組合ヨリ成田宛別電第五二号ノ通來電アリタル処右ハ
恐ラク往電第二二号ノ通ノ事情ニテ露国側ノ手ニ入り組合
員ノ間ニ於テサヘ互ニ他ヲ信用セス伐木規則違反其ノ他ノ
犯則行為ハ勿論税金木代金等ノ納付ニ付テサヘ連帶責任ヲ
回避シ居ルコトヲ先方ニ暴露シタル次第ト察セラレ交渉ノ
前途ニ不安ヲ禁セス若シ幸ニシテ近ク交渉成立シタリトス
ルモ愈々調印ノ場合往電第五〇号末段ノ如キ問題ヲ生スル
虞アルニ付此後發電ヲ注意シ且此際是非内部ノ結束ヲ固ム
ル様組合側ニ御訓諭相成ル様致シ度シ

五九一 十一月十一日

在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

最後ノ審議ヲ終了シ仮契約締結ノ運ビトナリ
タル件

第五四号

ニ双方同意シタルカ(三)試業案ニ於テハ双方ノ主張ニ六ヶ年
(先方四年当方十年)ノ差アリ此儘莫斯科ノ決定ヲ請フコ
トハ露国側ニテ承知セス東京ニ電照シタル上組合側譲歩セ
サレハ目下進行中ノ契約案作製ヲ中止シ交渉決裂トナル筈
ナリ

五九三 十一月十三日

広田欧米局長ヨリ
門野露領林業組合長宛

組合内部結束ノ必要ヲ説クニ瓶総領事ノ來電

通報ノ件

欧一機密第四八五号

森林利権契約名義ニ關スル件

露国当局トノ契約調印ニ對スル当方名義ニ關シ本月九日付
ヲ以テ貴方ヨリ在「ハバロフスク」成田氏ニ訓電アリタル
趣ナル処右ニ關シ今般同地ニ瓶総領事ヨリ右ハ電信檢閱ノ
關係ヨリシテ露国側ノ手ニ入リタルモノト推測スルノ外ナ
キ処右ニヨリ組合員ノ間ニ於テサヘ互ニ他ヲ信用セス伐木
規則違反其他犯則行為ハ勿論税金、木代金等ノ納付ニ付テ
サヘ連帶責任ヲ回避シ居ルコトヲ先方ニ暴露シタル次第ト
思考セラレ交渉ノ前途ニ不安ヲ禁セス若シ幸ニシテ近ク交

一五 日ソ間ノ利権交渉 五九三 五九四

利権委員会ヨリノ要求ニ依リ今十一日夕最後ノ審議ヲナシ
莫斯科ニ於テ削ル項目ハ莫斯科ニ於テ決定スル条件ヲ付シ
テ当地ニ於ケル審議ハ此レヲ以テ打切り仮契約締結スルコ
トニナツタ委員長ノ話ニヨリテミレハ先方此ノ要求ノ動機
ハ極東委員長ノ莫斯科行ト鈴木商店側カ組合ハ未登記ニシ
テ基礎ハ薄弱ナルモノニシテ「鈴木」「極東」ノ如キハ更
ニ貧弱ナリト宣伝シ「ダリレス」或ハ自身ノ名儀ニテ「コ
ツピイ」「ボツチ」兩林区払下ラレタシト狂奔シタルコト
ニ原因ス兎ニ角本夕最後ノ審議會テ貴方意見ヲ極力主張シ
決定出來サル項目ヲ除外シテ仮契約締結スルコトナル次
第二付御諒承ヲ請フ

五九二 十一月十三日

在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

彼我交渉条件ノ差ニツキ報告ノ件

第五五号

往電第五四号林業代表発梅浦宛電報ニ關シ

十一日ノ會議ノ結果彼我条件ノ差ハ(一)木代金ニ於テ半「カ
ペク」(二)輸出税ニ於テ一分(先方三分当方二分)ニ過キス
右ハ何レモ其ノ儘契約書ニ記入シ莫斯科ノ裁決ヲ仰クコト

涉成立ストスルモ愈々調印ノ場合ニ至リ既電(本月六日付
欧一機密第四七五号梅浦氏宛公信参照)ノ如キ問題ヲ生ス
ル虞アルニ付此際是非内部ノ結束ヲ固ムルヲ緊要ト認ムル
旨電報アリタルニ付右通報ス

五九四 十一月十四日

幣原外務大臣ヨリ
在ハバロフスクニ瓶総領事宛(電報)

木代金変更ヲ非トスル林業組合側ノ意向ヲ轉

達ノ件

第二〇号

梅浦ヨリ成田へ

今更木代金迄變更サレテハ困ル木代、税金、跡片付費、施
業案費(総額ヲ支払期日ノ義務材積ニ割当テ計算スルトシ
テ)国営割増シ保険料其他一切ヲ總括シ檢尺ノ二割五分ヲ
見込ミエゾ、トド、中丸太ヲ標準トシ日本檢尺百石ニ付百
留迄譲歩スル此範圍ニテ成ルヘク安ク取極ムヘシ之ニテ出
來ネハ決裂ノ外ナケレト為念一応先方主張ノ最後案ヲ詳報
セヨフーツ義務材積ハ三百五十万立方呎トス施業案ハ六ヶ
年ニテ妥協セヨ

一五 日ソ間ノ利権交渉 五九五 五九六

五九五 十一月二十一日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

モスクワニ於テ最後ノ決定ヲナス条件ニテ調
印スベキ旨林業代表報告ノ件

第五九号

林業組合ヨリ梅浦ヘ左ノ通り

貴電見タ

工場能力ハ昼半分、夜半分合計全材ヲ消化シ得ルモノ結局
全材二分ノ一ヲ消化シ得ルモノヲ建テレハ可シ
工場建設ハ是非三ヶ年間に完成セヨト先方要求シタルニ対
シ当方ハ三ヶ年目ニ着手六年目ニ完成スヘシト漸ク妥協シ
タル故ニ兩期間規定ノ必要生セリ

調印ハ二十一日面談討議セル相互主張ノ接近シタル最後条
件ヲ基本トシ相互絶対ニ同意出来ヌ箇所ハ彼我条件双方列
記シ莫斯科ニ於テ最後ノ決定ヲ仰ク条件ノ下ニ来ル二十五
日晚調印スルコトニシテ御承認請フ

先方最後条件四二項目受取リテ訳読中ナリ明日電

五九六 十一月二十三日

在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

先方提示ノ契約案ハ妥協ノ余地ナキニヨリ一先ズ引揚グルコ
トトシタキ件

第二〇号

先方提示ノ契約案ヲ通読シ見ルニ施業ハ当方十ヶ年主張ニ
対シ四ヶ年ヲ主張シ木代モ依然トシテ旧主張ヲ(脱)ケス
且工場ハバルプ工場五百万木挽工場十萬円宛ノ膨大ナモノ
ヲ要求シ且又予期セサル移民税木代ノ五%尚各林区ヲ通シ
林務官々舎四十八軒要求シ跡片付費一割供託シタ上尚当方
ノ責任ニテ実施セシムル等到底採算トレサルハ勿論毫モ長
期利権ノ意味ヲ為サス当地当局トノ交渉ニテハ妥協ノ余地
無シ本日幸ヒ来哈ノ阿部、平塚ノ両氏トモ相談ノ上予テ打
合セ及其後ノ訓電ニ基キ徹底的ニ契約書訂正削除及増補等
ヲ要求シ一ト先ツ引揚ケ先方ハ当方修正ヲ付シ中央政府ニ
採決ヲ仰ク筈

五九七 十一月二十六日

在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

先方ハ契約締結ノ意ヲ有シ交渉ノ決裂ヲ惧ル

ル模様觀察報告ノ件

第六四号

一五 日ソ間ノ利権交渉 五九七 五九八

八五六

当方ニ有利ナル要求ヲ示シ林業代表ハ一先ズ
引揚ノ意向表明ノ件

付記

十一月二十三日発在ハバロフスク成田、滝口代
表ヨリ露領林業組合梅浦宛電報第二〇号
先方提示ノ契約案ハ妥協ノ余地ナキニヨリ一先
ズ引揚グルコトトシタキ件

第六一号

(十一月二十四日接受)

林業代表ヨリ大倉梅浦ヘ左ノ通

二十日電報シタカ實際ノ処当政庁ハ当方ト契約ヲ切望シア
ルハ事実ナレ共当方強硬ノ態度ヲ示シタルニ対シ先方ハ硬
軟兩派ニ別レ結局中央政府ノ裁断ヲ仰ク事ト成リ彼等ハ其
ノ体面上且ツ懸引上今更厖大ナル要求ヲ為シタルモノニ外
ナラス依テ当方モ交渉記録ニ記載セラレタル範圍ニ於テ予
テノ打合セト訓電トニ基キ充分有利ノ要求ヲ以テ契約書修
正増補ヲ提示シ一先ツ帰ル彼等ハ当方要求トノ差余リニ大
ナル理由ニ依リ或ハ中央政府ニ本案ヲ提出セサルヤモ知レ
ヌカ行懸上萬已ムヲ得ヌ御承認請フ

(付記)

十一月二十三日発在ハバロフスク成田、滝口代表ヨリ露領林
業組合梅浦宛電報第二〇号

林業代表ヨリ梅浦ヘ左ノ通

第二一號弊電参照先方ハ是非当方ト契約締結ノ意ヲ有シ交
渉ノ決裂ヲ惧ルル事明瞭ナリ特ニ極東委員長ノ莫斯科滞在
中會議ノ変化ニ依リ交渉ヲ進ムル方我レニ有利ナルヲ力説
シツツアリ電報無クトモ「コッビー」「ボーチ」林区ノ暫
定的短期松下ケ強要問題ハ第三者ノ出願アルカ為ノミナラ
ス長延交渉延引ノ為國庫收入ニ違算ヲ生シタル為ナランモ
今後ノ交渉促進上ヨリ見テ短期經營ハ不得策ト思フ

五九八 十一月二十六日

在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連側ハ当地ノ交渉ヲ予備交渉ト見ナシ暫定

契約ニヨリ伐採ニ着手シタク慫慂セル件

第六五号

森林利権交渉ニ関シ成田側ハ二十三日非公式ニ露国側ノ契
約案ヲ入手シ之カ対案ヲ作成中ナリシカ二十五日(革命委
員会長一行莫斯科へ出発ノ前日)正式ニ露国側ト契約案ヲ
交換シ互ニ説明応答ヲ為シタル後露国側ヨリ当地ニ於ケル
交渉ハ之ニテ終了シタルコトト看做スコト及当地ニ於ケル
交渉ハ之ヲ予備交渉ト看做シ兩契約案ヲ基礎トシテ本交渉

八五七

ヲ莫斯科ニ開クヘキコトヲ宣言シ決裂モナケレハ調印モナク立チ分レトナレリ然レトモ往電第四〇号ノ如キ次第ニテ露国側ハ是非共此ノ冬ヨリ事業ニ着手セシムル必要アルカ為メ成田ニ対シ暫定契約ニ依リ即時伐採ニ着手スヘキコトヲ德邁シ二十八日迄ニ条件ヲ提出スル筈ナリ

五九六 十一月二十六日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

条件次第ニテモスクワニ行クコトナク交渉纏ルベシトノ滝口代表ノ個人的見解通報ノ件

第六六号

滝口ヨリ梅浦ヘ左ノ通り

本二十六日迄ノ状況ハ弊電第二一号及前電ノ通ナルモ小生個人ノ考トシテハ莫斯科マテ行カストモナホ当地ニ於テ既納金問題ヲ除外シ施業案費ノ納金期間ヲ五ヶ年位トスレハ交渉纏マルカ如何カト思ハル此ノ事貴下マテ申シ上ク何等カ指図アルマテ小生当地ニ止リ訓電待ツ

六〇〇 十一月二十八日 在ハバロフスクニ瓶総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連側ハ当地ニ於テ交渉継続ヲ提議シタルニ

交換ノ際第一案ヲ提示シタルニ成田ハ一旦帰朝打合ヲ為スノ必要アリトテ之ニ応セサリシニ依リ更ニ第二案ヲ示シタルニ成田ハ此案ニモ氣乗セス急速帰国ノ準備ヲナシ居ル為ニ二十六日更ニ第三案ヲ提出シ莫斯科ヨリ本利権ニ関スル全權ノ委任アルヘキ事ヲ予期シテ当地ニ於テ本契約ノ交渉ヲ継続スヘキ事ヲ申出タル次第ナリト察セラル就テハ此際先方ノ希望通本契約ノ成立ヲ急クヲ得策トスヘク此機ヲ逸スレハ後日今ヨリ有利ナル条件ニテ契約ヲ締結スル事困難ナリト思考ス

六〇一 十二月三日 幣原外務大臣ヨリ
在ハバロフスクニ瓶総領事宛(電報)

当方希望条件ヲ速ニ先方ニ承認セシメヨトノ

林業組合ノ意向転達ノ件

第三〇号

成田ヘ林業組合ヨリ

露国明年度予算困ルナラ此冬山ヤルト否トニ係ラス長期契約サヘ当方ノ希望ノ通り成立セハ五十万石丈ケハ木代金ノ前納ヲ辞セサルニ依リ希望条件ヲ速ニ承認セシメヨ

昨日藤田ト鈴木商店金子氏ニ面談ノ結果同氏ヨリ石田宛ニ

一五 日ソ間ノ利権交渉 六〇一 六〇二 六〇三

ヨリ諸般ノ状況ヲ勘案シ先方ノ希望通り本契約ノ成立ヲ急グ方得策トノ意見具申ノ件

第六八号 (十一月二十九日接受)

往電第六五号ニ関シ

二十六日更ニ露国側全權「マモノフ」ヨリ成田ニ対シ当地ニ於テ交渉ヲ継続スヘキ事ヲ提議セリ「マモノフ」ノ滝口ニ語リタル処及革命委員長「ガマルニク」ノ本官及川角ニ語リタル処其他ノ情報ヲ綜合スルニ露国側ハ本利権契約ヲ予期シテ十月一日ニ始マル明年度ノ財政計画ヲ立テ居ル為今トナリテ動キカ取レス(一)成田等ヲ二十六日「ガマルニク」ト莫斯科ニ同行セシメ同地ニテ急速ニ交渉ヲ纏メル事(二)成田等カ同行ヲ肯セス從テ交渉遅延スル場合ハ已ムヲ得ス当地限リノ暫定短期契約トシナルヘク速ニ事業ニ着手セシムル事(三)暫定契約交渉中「ガマルニク」ハ莫斯科ニ到着スヘキニ依リ同地利権委員會本部ヨリ極東利権委員會ニ対シ本利権ニ関スル全權ヲ委任セシムルニ勉メ幸ニシテ成立スレハ暫定契約ヲ捨テテ本契約ヲ締結シ不幸ニシテ其目的ヲ達セサレハ急速ニ暫定的短期契約ヲ結ヒ本契約ノ交渉ハ莫斯科ニ於テ悠々之ヲ行フ事ノ三案ヲ立テ二十五日契約案

当方交渉ニ対シ妨害ノ惧アル行動ヲ中止スヘキ訓電ヲ發セリ

六〇二 十二月九日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

本契約締結ノタメモスクワニ派遣セラルベキ

組合員ノ氏名ヲ予メ承知シタキ旨先方ヨリ申越

ノ件

第七六号

往電第六九号ニ関シ

其後「マモノフ」ハ成田ニ対シ書面ヲ以テ在莫斯科利権委員會本部ハ林業組合ヨリ莫斯科ニ代表者ヲ派遣シ本契約ヲ締結セン事ヲ期待シ居ルニ付テハ其際派遣セラルヘキ組合代表者ノ氏名ヲ予メ承知シ度旨申越タリ

右ニ対シ成田ハ本契約締結方ニ関シ組合本部ト打合ノ為帰国スルニ付同代表者決定セハ早目ニ通報スヘキ旨五日付書面ヲ以テ回答シ同日当地発帰朝ノ途ニ就ケリ

六〇三 十二月二十六日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外国企業家ノ運動モ加ハリ交渉ガ遅ルルニ從

ヒ組合側ニ不利トナルニヨリ速ニ本契約取極

メニ着手スル必要進言ノ件

第九〇号

(十二月二十七日接受)

二十四日露領林業組合ヨリ露国当局宛利権代表者莫斯科ニ出発ノ予定ナル旨來電アリ右ハ即日極東利権委員会ヨリ中央利権委員会ニ電報シ置キタル趣ナリ極革委員會議長「ガマルニク」農務全權「マモノフ」及極東利権委員會員「バズルコフ」ハ二瓶總領事及本官ニ対シ成田、滝口ハ林業専門家ニシテ資本金ニ非ス組合代表者ナルモ本部ノ意向ヲ確メタル上ナラテハ一小問題テスラ決定スル権能ナク当地ニ於テ本契約ノ調印ノ運ニ到ラサリシヲ頗ル遺憾トシ更ニ莫斯科ニ於テ双方ノ「プロトコール」ヲ基礎トシ交渉続行ノ準備ヲナスヘキ旨述ヘタリ極革委員會ハ極東州財政計画ノ關係ニ於テハ勿論極東利権委員會議限リニテ本契約ヲ成立セシメ度キ希望ナリシモ成功セス折柄樺太利権契約調印ノ報アリ此ノ際何トカシテ管内森林利権本契約ヲ物ニセント焦リ居ルモノナラント觀測セラル然ルニ予テ呢懇ノ間柄ナル鈴木商店技師「マルコウイチ」ハ本官ニ対シ林業組合ノ交渉遅々タルニ乘シ本邦ニ關係アル独逸人事業家「ゲルトネ

ル」ナルモノ英國人ノ資本ニ依リ露領森林利権ニ着目シ「マルコウイチ」ニ利権獲得運動ノ斡旋方ヲ依頼シ來レル趣ヲ述ヘ若シ林業組合カ躊躇シ此ノ儘來年トナラハ他ノ有力ナル独逸、瑞典等ノ企業家モ同利権獲得運動ニ着手スルナラン云々ト語レリ

就テハ林業組合ノ交渉ハ既ニ遅レ氣味ナルモ遅ルレハ遅ルル程露国側強硬トナリ組合側ハ益々不利ノ立場ニ陥ルヘシ此ノ機會ヲ逸セス速ニ有力ナル代表者ヲ莫斯科ニ派遣シ本契約ノ取極メニ着手スルコト適當ナラント思考ス

(参考)

森林利権交渉^(編註)

沿海県森林利権ニ關シテハ大正十三年十月中日本側關係者代表成田忠正「ハバロフスク」ニ至リ地方当局ト交渉ニ当リ居タル処本年一月中旬日露交渉成立直前労働當局ヨリ同人ニ対シ二十ヶ年以内ノ森林利権ヲ邦人名義ニテモ許ス旨提議シ來レリ

日本側ニテハ林区關係者露領林業組合ヲ組織シ成田ヲ其代表トシ三月二十三日付ヲ以テ極東利権委員會ニ宛テ交渉開

始ニ対スル概括的希望ニ關スル申請書ヲ提出セシメタリ其後代表ハ露国当局ト交渉ノ結果双方ノ意向略定マリタルヲ以テ一応帰京ノ上組合幹部ト打合ノ上再「ハバロフスク」ニ赴キタリ

九月二十四日日本側露領林業組合代表成田忠正滝口寅之助及露国側農務代表「マモノフ」ヲ委員長トシ浦潮林務局長「レーベフ」ヲ補佐トスル極東利権委員トノ間ニ第一回ノ交渉ヲ開始シタリ

組合側ハ「ムラシキ」外九林区合計面積二百四十万「デシヤチン」ニ対シ二十四ヶ年ノ期限ニテ利権供与方ヲ申出テ右ニ關スル税率労働者關係其他林業者ノ義務条件ニ關シ討議ヲ進メ十月八日迄ノ會議ニ於テ日本側代表ハ大体交渉成立ノ見込モ立チ日本側ニ於テ最後ノ決定ヲ為ス必要アリトナシ成田代表ハ十二日「ハバロフスク」発帰京シ他ノ一名ハ殘留シテ交渉ヲ繼續セリ

十一月三日成田代表帰哈シ會議ヲ進メ十一月十一日迄ノ會議ニ於テ難問題タル木代金、工場、施業案費及輸出割増金等ヲ討議シタル双方主張ノ折合ハサル点ハ木代金ニ於テ半割、輸出割増金ニ於テ一%ニシテ此等ハ其儘契約書ニ記入

シ莫斯科ノ裁決ヲ仰クコトニ双方同意シタルカ施業費ノ払込ニ就キ露国側ハ四年間ニ之ヲ為スヘキヲ要求シ日本側ハ之ヲ十年トセラレタキ旨申出テ工場ニ就テハ締約締結後三年以内ニ建設ニ着手シ木挽工場ハ五年目ニ「パルプ」工場ハ六年目ニ完成セシメ工場設備ハ昼夜作業合シテ伐採全材積ヲ消化シ得ル能力ヲ有スルモノトシ、「パルプ」工場ハ第八「フーツ」及第十一「コッピ」両林区ニ建設シ木挽工場ハ第十二「ボッチ」第十八「ハジヤ」両林区ニ調査ノ結果經濟的ニ価値アル場合ニ建設シ、工場ヲ建設セル林区ノ木材ハ最少限度ノ其伐採材積ノ二分ノ一ヲ加工スヘク「パルプ」工場ヲ建設スル林区ノ租借期限ハ四十五年トスルコトニ双方話合タル処其後組合側ハ工場設備ニ關スル条項削除外ヲ主張シ露国側ハ「パルプ」工場及木挽工場ヲ建設スヘキコトヲ固執シ其他跡片付ニ關スル要求ヲナシ双方折合ハサリシカ兎ニ角之ヲ以テ最後ノ審議トシ双方意見決定出來サル項目ハ之ヲ莫斯科ニ於テ決定スル条件ヲ付シ「ハバロフスク」ニ於ケル審議ヲ打切り露国側契約案ニ対シ日本側ニテモ對案ヲ作成シ之ヲ「ハバロフスク」ニ於ケル交渉ハ予備交渉ト看做シ兩契約案ヲ基礎トシテ莫斯科ニテ本交

渉ヲ行フヘキコトヲ宣言シ立分レトナレリ
其後露国側ハ組合代表ニ対シ暫定契約ニ依リ直ニ伐採ニ着手セムコトヲ懇懇スル所アリ二十六日露国側代表「マモノフ」ヨリ日本側ニ対シ「ハバロフスク」ニ於テ交渉ヲ継続スヘキコトヲ提議シ来リ成田代表ハ從來ノ経過ニ鑑ミ既納金問題ヲ除外シ施業案費納金期限ヲ五年位ニ延長セハ莫斯科ニ行カストモ同地ニ於テ交渉纏ルヘシトノ意見ヲ抱キ居リ二十八日「マモノフ」ト会谈ノ結果自己ノ關係アル林区ニ対シ短期払下ノ契約ヲナサントシタルモ組合ハ十二月一日同代表ニ対シ組合ニ於テハ短期契約ノ意思ナク長期利權

ヲ獲得スル方針ニテ進ムヘキ旨ヲ電報シ同代表ニ帰朝ヲ命シタリ依テ日本側代表ハ十二月初旬「ハバロフスク」ヲ出發セリ
成田代表出發前露国側ヨリ莫斯科中央利權委員會ハ林業組合ヨリ莫斯科ニ代表者ヲ派遣シ本契約ヲ締結セムコトヲ期待シ居ルニ付其際派遣セラルヘキ組合代表者氏名ヲ予メ承知シタシトノ公文書ヲ同代表ニ送付セリ

編註 右ハ大正十四年十二月欧米局第一課作成ノ森林利權交渉ノ経過概要デアルガ便宜上ココニ付載シタ

事項一六 日ソ漁業問題

六〇四 一月十五日 出淵外務次官ヨリ
四条農商務次官宛

サガレン撤兵ニ伴フ同地漁業權問題ニツキ回

答ノ件

付記 大正十三年十二月二十四日付四条農商務次官ヨリ
出淵外務次官宛水第二一四三号

通二機密第七号

薩哈噠漁業權ニ関スル件

本件ニ関シ客臘二十四日付水第二一四三号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ニ関シテハ(一)貴信前段即チ薩哈噠ニ於ケル漁業權ニ付テハ其ノ「ポーツマス」条約ニ基キ本邦人ニ許与セラレタルモノナル限り之ヲ確保スヘキハ言フ迄モ無之現ニ北京会商ニ於テモ芳沢公使ヲシテ折角之カ主張ヲ為サシメ居リ次ニ(二)中段上半即チ八木実通請願ニ係ル本年度漁区繼續貸下方ニ付テハ御来示ト全然同意見ニ有之尚(三)中段下半即チ不落漁区ニ於ケル漁業用物件ノ処分ニ付テハ其ノ処分カ

撤兵前ナルニ於テハ大正十年薩哈噠軍政部々令第一号第二十一条ノ規定ニ依ルコト可然ト認メラレ候將又四後段即チ若シ薩哈噠派遣軍ノ撤退カ本年度漁期中行ハルル場合ニ於テ許可期間中ノ漁業權ノ保障方ニ付テハ前記漁業用物件ノ処分方ニ関シ撤兵後ニ行ハルルモノト共ニ露国側ト何等協定ヲ遂クルノ必要認メラルルニ於テハ当省ニ於テモ適宜考慮スルコトアルヘキモ寧ロ右撤兵ニ際スル軍政引継ノ場合陸軍当局ヲシテ露国当局ニ一応申入レシムルコト可然歟トモ思考致候条右ニ御了知相成度此段回答申進候也

(付記)

四条農商務次官ヨリ出淵外務次官宛水第二一四三号

水第二一四三号

大正十三年十二月二十四日

農商務次官男爵 四条 隆英(印)

外務次官 出淵 勝次殿

今般薩哈噠州派遣軍ノ漁業管理区域内ニ於テ漁業ニ従事ス